

## 大原社会問題研究所五十年史

## Ⅱ 創立当初〔一九一九～二二年〕

## 研究スタッフの充実

一九二一年 大正一〇年 高野博士の所長就任、研究員や助手の充実、そして事務所の新築と、つぎつぎに重要な布石を前年中に完了した大原研究所は、年が改まるとともにいよいよその事業の展開期に入った。つぎにこれらの調査研究出版事業について記す前に、人事異動をかんたんに見ておこう。

森戸氏は刑を終えて二月四日出獄、しばらく静養していたが、研究員として欧州に留学することになり、研究嘱託の大内氏とともに三月初め日本を後にした。竹内謙二氏は三月末をもって辞職し、堀田康一氏(戸田貞三氏の助手)と虐師節女史も同時に退所した。

五月より宇野弘蔵氏(助手として東京勤務)、水谷長三郎、小林輝次両氏(嘱託)が入所した。また長谷川如是閑氏の紹介で前大阪朝日記者花田大五郎氏が二月より嘱託となり、六月に読売新聞社に転出するまで短期間ながら所の仕事に参加した。細川、権田、山名の三氏は研究嘱託であったが、この年の末研究員になった。なお新明正道氏は採用が内定した(二月八日)のであるが、関西大学への就職が先にきまり、入所は実現しなかった。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)